

大会名 Competition	2018年度 第69回 秋田県民体育大会バスケットボール競技 兼第73回「福井しあわせ元気国体」秋田県代表スタッフ・選手選考会				
NO.	0 A3	Year	Month	Day	Time
場所 Place	能代市総合体育館				



チームA		チームB										
J R 東日本秋 田ペッカーズ	<table border="0"> <tr><td>25 1st</td><td>8</td></tr> <tr><td>23 2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>32 3rd</td><td>13</td></tr> <tr><td>25 4th</td><td>7</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	25 1st	8	23 2nd	13	32 3rd	13	25 4th	7	OT		厚生倶楽部
25 1st		8										
23 2nd		13										
32 3rd		13										
25 4th	7											
OT												
105	41											
○	●											

主審:Referee
久米 克 弥 秋田 S
第1副審:1st Umpire
中道 凌 平 秋田 A
第2副審:2nd Umpire
田村 高光 秋田 B
テーブルオフィシャル:Table officials
秋田県立能代高等学校
女子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
3	×	大 矢 孝太郎	CAP	11	0	5	1	0	0	0	三 戸 祥 大	CAP	-	-	-	-	-
7	/	森 知 史		14	0	5	4	0	1	1	金 谷 泰 昭		-	-	-	-	-
8	/	志 水 一 希		2	0	1	0	1	2	2	×	草 彌 桂	6	0	2	2	1
11		鈴 木 隆 史		-	-	-	-	-	3	3	/	上 村 治 弘	4	0	2	0	1
12	×	根 岸 城 二		4	0	2	0	3	6	6	×	渡 部 宏 斗	4	0	2	0	0
15	×	柳 澤 洸 太		10	0	5	0	1	7	7	×	草 皆 孝 之	6	0	3	0	2
24	/	高 橋 純		6	0	2	2	0	8	8	×	吉 川 雄 磨	10	2	2	0	2
30	/	館 龍 星		11	0	5	1	0	9	9	/	志 村 泰 輔	2	0	1	0	1
33	/	佐 藤 光		7	0	3	1	2	12	12	/	平 塚 樹	3	1	0	0	1
34	×	菊 地 啓 志		0	0	0	0	1	15	15	/	横 山 空	0	0	0	0	0
39		櫻 庭 朋 久		-	-	-	-	-	16	16	×	大 塚 綾 人	2	0	1	0	3
65	/	佐々木 健 登		6	1	1	1	0	17	17	/	高 橋 一 成	0	0	0	0	0
91	/	齊 藤 大 輔		12	1	4	1	3	21	21	/	大 貫 耕 内	2	0	1	0	2
99	×	山 崎 涉 真		22	3	6	1	0	41	41	青 井 佑 樹	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	55	筒 井 吉 仁	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	56	嵯 峨 優 翔	-	-	-	-	-	-	
				-	-	-	-	-	77	/	伊 藤 大 土	2	0	1	0	3	
				-	-	-	-	-	91	佐 藤 隼	-	-	-	-	-	-	
合 計				105	5	39	12	11	合 計				41	3	15	2	13

※×:スーター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

成年男子決勝。J R 東日本秋田と厚生倶楽部の対戦。

第1ピリオド:両チームともにマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり、J R 秋田は厳しいディフェンスから#12根岸の速攻や、#3大矢のインサイドプレーなどで好スタートを切る。厚生はJ R 秋田の厳しいディフェンスにタフショットが続き、なかなか得点に繋がらない。残り時間4分40秒、J R 秋田#24高橋がミドルを決め13-2としたところで、厚生はたまたまタイムアウトを取り、J R 秋田の勢いを止めようとする。しかし、J R 秋田は#24高橋と#7森のバスケットカウントや#30館のミドルなどで次々と加点し、25-8のJ R 秋田リードで終了。

第2ピリオド:厚生は#77伊藤のインサイドや、#8吉川のドライブ、#12平塚の3Pなどで食らいつくも、J R 秋田は#15柳澤のドライブや#99山崎のインサイドで突き放す。48-21とJ R 秋田が更に点差を広げ、前半を折り返す。

第3ピリオド:厚生は#8吉川の3Pや#16大塚のドライブなどで巻き返しを図るが、J R 秋田も#99山崎の3Pなどを決め譲らない。流れを引き寄せたい厚生は、残り3分45秒のところでタイムアウトを取り、追いつきたいところだが、J R 秋田は#30館のインサイドや#7森のドライブなどで攻撃の手を緩めず、80-34のJ R 秋田リードで最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド:J R 秋田は#91齊藤の3Pやインサイドなどで加点していく中、厚生#8吉川もリバウンドシュートや3Pなどで奮起する。しかし、J R 秋田は速い攻撃や#3大矢が100点目をダンクで決めるなど圧倒。終始主導権を握り続けたJ R 秋田が、105-41で11年連続の優勝を飾った。